連載 - 第23回 - *Recommended by the president*

経営者のおすすめをご紹介します

社長のRecommend

Pick Up！ 今月はおすすめの読書法をご紹介します

●今月のご紹介者

音羽電機工業　株式会社　代表取締役社長　吉田　修 氏

乱読のすすめ

Q１：吉田社長がお考えの乱読とは

今回、心に残る書物、皆様に推薦する書籍について投稿を、とのご依頼でしたが、これまで本当にたくさんの本と出合ってきて、なかなか絞り切れず、自己流ですが、乱読をおすすめしたいと思います。

乱読のおもしろさは、知らない社会、世界を知ることができて、人間味にプラスとなり、話題が豊富になることです。そして、経営者の立場としても、さまざまなジャンルの本をたくさん読むことで事業経営に暖かみが与えられ、人の心を和ませるユーモアにつながると考えています。私は、当社の三代目社長なのですが、本から得た知見をもって存在感を出せればなと思いつつ、今日に至っています。

Q２：どのようなジャンルの本がおすすめですか

小説家は情報収集を徹底して行い、その収集した資料から想像をかきたて、筋書をつくっていきます。その最たる人が松本清張。収集する膨大な資料は図書館に匹敵するといわれています。

その意味で、企業小説、社会派小説がおすすめです。緻密な取材を通して得られた情報や根気よく集めたデータをもとに書かれており、読みごたえがあり、経営にも役立ちます。詐欺師の手口を知ることができたり、甘い話の裏にある危険なにおいに気づけたりもするでしょう。

よく読んだのは、その昔なら、清水一行、梶山季之。サラリーマン小説の先駆けともいわれる、源氏鶏太も面白かったですね。『明日は日曜日』とか。

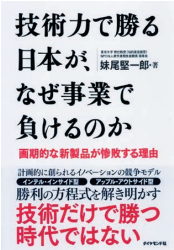
清水一行は、実際に起きた経済事件とそれに関わった人物をモデルに、企業の知られざる実態や事件の内幕を描く作風が面白く、思わずストーリーに引き込まれます。梶山季之は、産業スパイや同業者間の熾烈な競争をリアルに描いており、実在の企業の内情を垣間見るような面白さがあります。

Q３：特に印象に残っている作品はありますか

最近ですと、『技術力に勝る日本が、なぜ事業で負けるのか』『下町ロケット』、この2冊ですね。

前者は、著者の妹尾堅一郎先生を当社の幹部研修にお招きしました。日本企業がどれだけ先進的で有益な製品開発をしても、市場を獲得し、利益を手にするのは決まって海外の企業。なぜ日本は勝てないのか。内に籠りがちな社員に直接ご指導いただき、脳天を撃ち抜かれる思いがしました。

シャープAQUOSのデザインで著名な喜多俊之先生から、同様なことを言われました。「吉田さん、日本がアジアで№.１だと思っているのは日本人だけ。アジア人は韓国製が1番と思ってますよ」と。



『下町ロケット』は、小さな町工場と巨大企業が製品開発や特許を巡ってぶつかり合う姿。訴訟や資金繰りなどの窮地を乗り越えながら、自分たちの製品がロケットに搭載されることを夢見て、挑戦をあきらめないひたむきさ。ものづくりの尊さや技術者としての矜持が感じられる素晴らしい本です。当社では社員研修の教科書にしました。

OTOWA 音羽電機工業株式会社

会社概要

本　　社：兵庫県尼崎市潮江 5-6-20
資 本 金：8,190 万円
事業内容：電源用避雷器、信号回線用避雷器等雷対策製品の開発・製造・販売、雷対策コンサルティング
ホームページ：https://www.otowadenki.co.jp/